

暑さ耐性がリセットされる お盆休み明けは熱中症に嚴重警戒!!



お盆休み明けは、熱中症リスクが高まります

お盆休み前に暑さに慣れた体であっても、長期の連休で仕事から数日離れてしまうと、暑熱順化がリセットされて、熱中症になりやすい状態になっています。また、帰省や旅行、移動などで疲れている場合にも、熱中症には注意が必要です。

連休前と同じペースで作業するのではなく、無理をしないで徐々に体を慣らして作業するようにしてください。

夏も後半になると、連日の暑さによる疲れも溜まってしまいますので、水分と休憩をしっかり取るとともに、お互いに声かけ、目配り、気配りを行いましょう。

次頁から熱中症対策の一例を紹介します。それぞれの現場の作業内容や環境に応じて、適切な熱中症対策を行いましょう。

✓今年度の熱中症発生報告件数※は、8月17日現在 9件（昨年は全体で1件）

※北陸地方整備局発注工事（港湾空港関係除く）

対策
1

朝礼時・現場巡回時における 作業員への声かけ

● 熱中症への注意喚起

- ➔ 当日の気象予報（天気・温度・湿度）を発表し、特に気温や湿度の上昇が予測される日には、休憩や水分補給の回数を増やすように指示・注意喚起

● ミスト扇風機等を設置し、 涼しい環境での朝礼

● 朝礼時における健康状態の把握

- ➔ 体温計による体温確認
- ➔ 対人で行う健康状態確認



対策
2

快適な現場休憩施設及び 熱中症対策用品の設置

● 冷房を完備した休憩所の設置

- ➔ 休憩所に遮光ネットを用いた日除けテントの設置
- ➔ 休憩所内での冷房機器、ミストシャワー付き扇風機等の設置

● 熱中症対策用品の設置

- ➔ スポットクーラーの設置
- ➔ 休憩所内にスポーツドリンク、経口補水液、塩飴、梅干し等の設置



体に快適な作業環境

●作業に快適な服装及び装備

- ➔ 通気性の良いメッシュタイプのジャケットの着用
- ➔ 日除け付ヘルメットを着用するほか、後部に日避けのたれ布を取り付け放射熱を遮る
- ➔ フルハーネス着用でも大丈夫なファン付き空調エアコン作業服の着用



●作業時間の短縮

- ➔ 作業の休止時間・休憩時間の確保
- ➔ 高温多湿作業場所での連続作業時間の短縮



●暑さ指数WBGT値の測定

IoT機器を活用した健康・危機管理

●ウェアラブルデバイスを利用した健康・危機管理

- ➔ ウェアラブルデバイス*を手首等に装着し、温度湿度などの周囲の環境を測定して熱中症などの危険状態を察知し、現場責任者などへ通知。労働災害が発生した場合も、発見・対応までの時間が短縮できる。位置情報はGPSによる。

- 温度・湿度
- 気圧
- 脈拍
- 身体の動き・体勢

*ウェアラブルデバイスとは、腕や頭部など身体に装着して利用する端末のこと。



休業4日以上は建設工事事故データベース（SAS）に登録

- ・建設工事事故データベース（SAS）は、地方整備局・都道府県・政令指定都市・機構等が発注する公共工事で発生した一定規模以上の事故の事故報告データの集合体です。収集されたデータは、建設工事事故対策検討委員会や発注者において、工事事故防止に向けた対策の検討・立案に利用しています。
- ・休業4日以上の建設工事事故等を対象に、登録に必要な事故番号、パスワードを発注担当課長等に通知しますので、受注者・発注者は、インターネットを利用して登録（入力）してください。

✓ <https://sas.hrr.mlit.go.jp/>



- ・登録に関する詳細については、ホームページ内の「SASのガイドライン」を参照して下さい。

登録する対象工事

事故の分類	事故の定義
労働災害	工事区域において工事関係作業が起因して、工事関係者が死亡あるいは負傷した事故。 資機材・工事製品輸送作業が起因して工事関係者が死亡あるいは負傷した事故。 なお、ここでいう負傷とは、休業4日以上の負傷をいう。
もらい事故	工事区域において当該関係者以外の第三者が起因して工事関係者が死亡又は負傷した事故。 なお、ここでいう負傷とは、休業4日以上の負傷をいう。
負傷公衆災害	工事区域における工事関係作業及び輸送作業が起因して当該工事関係者以外の第三者が死傷した事故。 なお、ここでいう第三者の負傷とは休業4日以上もしくはそれに相当する負傷をいう。
物損公衆災害	工事区域における工事関係作業及び輸送作業が起因して第三者の資産に損害を与えた事故であって、第三者の死傷に繋がる可能性の高かった事故。

※ 工事区域：工事作業現場内及び隣接区域

【問合せ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 山崎